

マルトリートメントについての研修

公益財団法人母子保健協会「ふたば」No83 より

福井大学発達支援研究部門 友田明美教授の寄稿文をまとめたもの

2020年2月21日 遠藤清賢

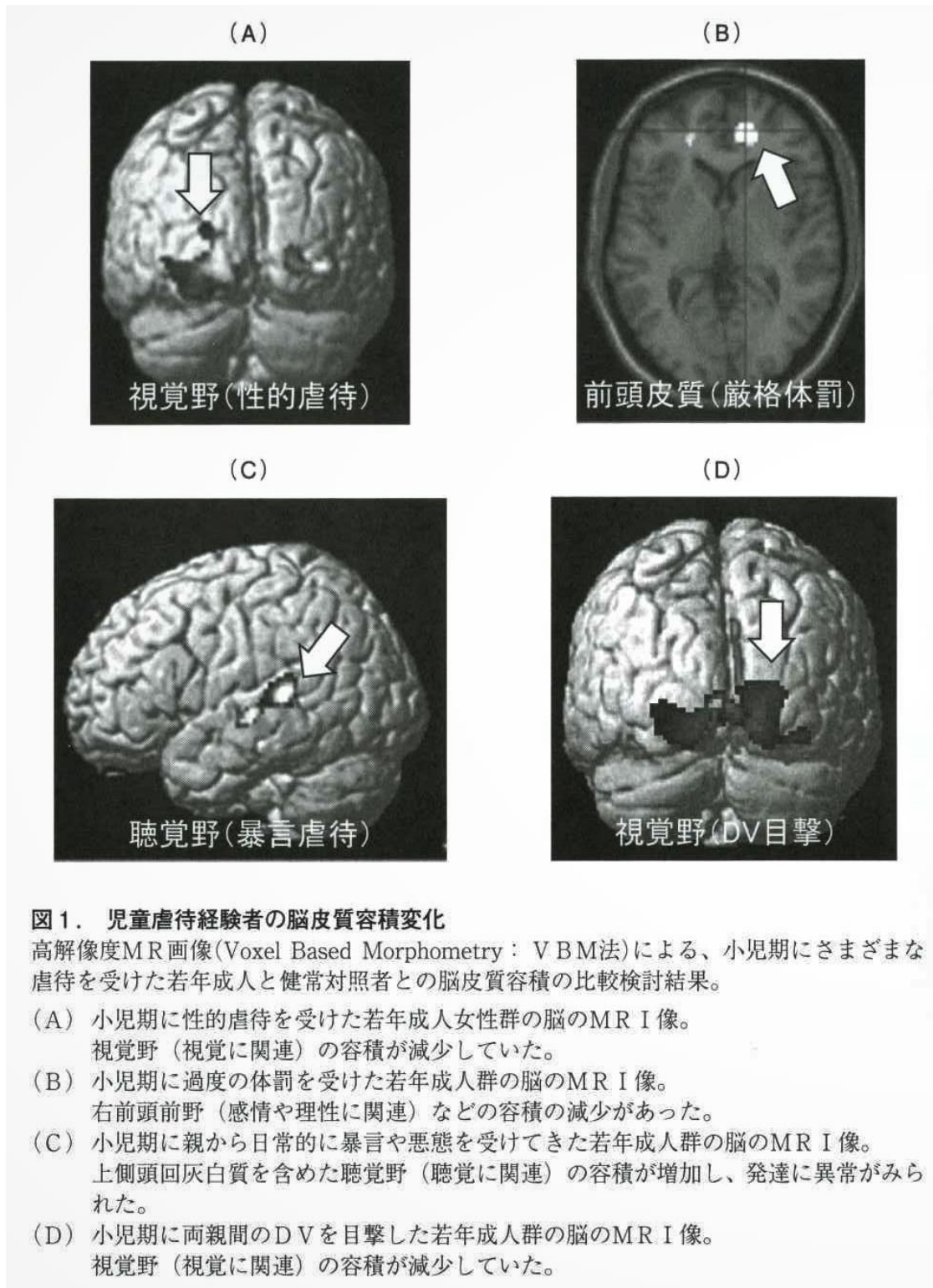
◆ マルトリートメント(Child Maltreatment)とは

マルトリートメント(Child Maltreatment)とは「避けるべき子育て」を指しています。略して「マルトリ」とも言われます。1980年代からアメリカで広まった表現です。日本語では「不適切な養育」と訳されています。WHOの定義では身体、精神、性的虐待、そしてネグレクトを含む児童虐待を広く捉えた虐待とは言い切れない大人から子どもへの発達を阻害する行為全般を含めた不適切な養育を意味しています。虐待と同義ですが「子どもの心と身体の健全な成長・発達を阻む養育すべてを含む呼称であり、傷や精神疾患が見られなくとも行為そのものが不適切であればそれはマルトリートメントといえることができます。

日常生活において、虐待の意志はなくとも、躰のためにということで、脅かしや、暴言など、強くしかりつけること等が、継続的に、強度が増して行われた場合、脳の萎縮や、逆に肥大する物理的な損傷が見られるのです。そしてそのために、学習意欲の低下、非行、心の病気に結びつく危険性があるのです。軽度なマルトリではこのようなことは起きませんが、一度損傷した脳を元に戻すのは容易ではありません。親子の関係は対等ではなく、明らかに大人のほうが「強者」であり子どもは「弱者」です。子どもにとって怒鳴られることや、体罰を与えられることは非常に大きな衝撃になるのです。躰とは子どもに恐怖を与えることではなく、正しく導くことが躰であるということをしかり確認しなければなりません。

◆ マルトリートメントと子どもの脳

虐待や体罰を受けることによって脳の大切な部分に傷がつくことが判明しています。この傷によって学習意欲の低下、引きこもり、大人になってからの精神疾患の可能性があるので。子どもに何げなくかけている言葉や対応が過度のストレスとなり、子どもの脳を傷つけてしまうこともあります。大人からのマルトリを受けたことがある子どもは、過度の不安感、情緒障害、引きこもり、等の症状を引き起こすことがあるのです。どのような過程においてもマルトリは存在するのですが、時に何かがあって過酷な体験をすとか、継続的に罵倒され続けるなどの体験がトラウマ(心の傷)となった場合、その体験記憶を「瞬間冷凍」し感覚を麻痺させることによって自分を守るのです。この冷凍された記憶が大人になった時に似たような音や場면을体験したとき、記憶が解凍され、精神疾患やDV行為、アルコール依存、薬物依存、等の形として現れることもあるのです。



◆ マルトリートメントの種類で、脳のダメージを受ける場所が変わる

脳が傷つくことで、子どもはさまざまな問題を抱えやすくなります。これまでの脳画像の研究から、小児期に受けたマルトリートメントの種類と脳の傷つく部位との関連がわかってきました。たとえば、厳格な体罰による「前頭前野の萎縮」、性的マルトリー

トメントや両親の家庭内暴力（DV）の目撃による「視覚野の萎縮」、暴言マルトリートメントによる「聴覚野の肥大」などです。これらは、脳が傷つくことから「自分を守ろう」とする防衛反応だと考えられています。マルトリートメントが頻度や強度を増したとき、子どもの脳はこのように物理的に損傷します。その結果、学習意欲の低下や非行、うつや統合失調症といった心の病に結びつく危険性があるのです。もちろん、軽微なマルトリートメントでは、そのようなことは起きませんが、一度傷を負った脳を元に戻すことは容易ではないのも事実です。程度の差はあれ、マルトリートメントがない家庭など存在しません。時代とともに、子どもとの距離感に変化が生じ、多くの親御さんが子育てに迷いを抱えている実態も窺えます。だからこそ、親の言動が子どもの脳に与える影響について、知っておいて下さい。

◇ 「身体的マルトリートメント」でダメージを受ける脳の部位... 前頭前野

子ども時代に体罰を受けた経験がある人の脳をMRIで調べた結果、「前頭前野」の容積が平均19.1%減少することがわかりました。20代後半までゆっくり成熟する前頭前野の一部が壊されると、うつ病に似た症状が出やすくなります。また、犯罪抑制力に関わる部位でもあるため問題行動を起こす確率も高くなり、体罰を繰り返し受けていると非行に走りやすくなるのです。

◇ 「性的マルトリートメント」でダメージを受ける脳の部位... 視覚野

性行為やポルノ写真・映像にさらすなどの性的マルトリートメントを受けたことがある人は、大脳皮質の後頭葉にある「視覚野」の容積が受けていない人よりも平均18%も減少していました。特に容積の減少が目立つ部位は、視覚野の中でも顔の認知などに関わる「紡錘状回」でした。視覚野の容積の減少は、視覚的な記憶システムの機能の低下が関係していると考えられます。

◇ 「精神的マルトリートメント」でダメージを受ける脳の部位... 聴覚野／視覚野

言葉の暴力や両親のDVを目撃させるなどの精神的マルトリートメントは、「聴覚野」や「視覚野」を変形させます。暴言によるマルトリートメントを受けたことがある人は、大脳皮質の側頭葉にある聴覚野の一部の容積がシナプスの正常な刈り込みができず、受けていない人に比べて平均14.1パーセントも増加していたのです。暴言を浴びせられた子どもは言葉の理解力などが低下し、心因性難聴になりやすくなります。また、脳の視覚野が萎縮するというデータもあり、目からの情報を最初に受け取る力・記憶する力が弱まり、知能・学習能力が低下する可能性が指摘されています

◆ マルトリートメントが子どもの人生に影響を与える

幼少期不適切な養育によって、愛着が形成されない場合、鬱などの心の病や、幼少期に問題がなかったとしても成人になってから、健全な人間関係が結べない、達成感

を感じられない、意欲がわからない、等、様々な問題が現れます。マルトリは死に至らなくても深刻な影響や後遺症を子どもに残し、過酷な人生を背負うことになるのです。虐待によって支配と被支配という関係や暴力への恐怖心の中で生きている子どもたちが成長した場合、不適な接し方しかできない可能性が高まります。一方では核家族化や少子化によって育児困難に悩む親たちが多くいます。虐待は連鎖するといわれますが、マルトリを経験した子どもたちの2/3は自分が親になってもマルトリはしないということがわかっています。求められるのは社会が様々な連携を構築し、苦しんでいる親や子どもたちを支援し、支えることです。あるべき信頼関係を取り戻すことが求められています。

◆ 大人が注意すべきこと

愛の鞭の行動がいつの間にか身体的虐待にエスカレートしてゆくことの危険性を知り、寄り添いながら養育することが求められます。そのためのポイントとして次の4点が掲げられています。

- ① 子どもの脳に及ぼす影響を理解し、体罰・暴言による子育てはしない。
- ② 大人と子どもは対等な力関係ではないという前提に立つこと
- ③ 親は、爆発寸前のイライラをクールダウンすること
- ④ 親は子どもの気持ちと行動を分けて考え、成長を応援すること

親は孤独ではいけないのです。社会や保育園がこのような孤独の中で子育てをしている家族を支えなければなりません。また、保育園で働く私たち自身も子どもとの関わりの中で、子どもを注意したり叱ったりすることがありますが、その言葉や態度がマルトリになっていないかどうか検証しなければなりません。いずれにしても、継続的に繰り返す注意の言葉とか、大きな声で叱りつけることはしてはいけないことだということです。そして、叱った後は必ず抱きしめるとか、優しい声掛けをして正しい方向を示してあげることが求められています。ただ単に恐怖心を与えることはいけないことです。

子どもにマルトリを体験したことのある人と体験したことのない人を比較した場合次のような症状が出てくるのだそうです。

- ① 精神疾患の前駆症状(うつ病の場合意欲・興味の低下や睡眠障害等)
- ② 発症が早期化し、経過が重症化する。
- ③ 併存症、例えば心的外傷後ストレス障害(PTSD)、物質使用障害(薬物障害依存症)などが現れやすい。
- ④ 治療への反応が見られにくい。

子どもが成長するためには大人の養育が絶対に必要です。親も子ども心身共に健全であるためにより良い社会支援のシステムの構築が求められています。